

## 「消化器がん手術後の病態と栄養管理 ～手術後のからだ おなかと栄養管理～」

岩手医科大学 第1外科講師 池田健一郎

みなさんは「がん」と聞いて何を思い浮かべますか？「怖い」「辛い」「痛い」「死ぬ病気」・・・いずれ良い印象を持っている方はほとんどいないと思います。まさに国民すべてが「がん」ノイローゼ状態といっても過言ではありません。

平成15年の人口動態統計によれば、日本の死亡者数は年間約101万人で、死因の第1位である悪性新生物で亡くなった方は約31万人です(悪性新生物=「がん」ではないのですが、この場ではほぼ同じに考えて構いません)。このうち消化器系の悪性新生物は半分以上の約17万人です。では、悪性新生物に罹った患者さんはどれ位いるのでしょうか？平成14年の患者調査によると、悪性新生物患者数は推計で128万人、胃・大腸・肝臓の悪性新生物患者は50万人以上います。従って、大雑把に言うと、死の病「がん」に罹った患者さんのうち、実際に亡くなった方は4人に1人で、残りの3人は亡くなっていないことがわかります。さらに消化器がんの代表である胃や大腸の悪性新生物で亡くなる方は、おおよそ5人に1人です。ですから、消化器の「がん」は絶対に治るとまではいきませんが、現在の日本の医療では、かなりいい線いくのです。

その治療の主体は手術で、胃や腸を切り取らないといけません。食事に直接関係する胃や腸を取れば、その後は色々な問題が起こります。中でも栄養に関する問題は、手術後に今までの生活に戻れるかどうかの重要なポイントになります。今回は、手術のやり方、手術後の病態、栄養の取り方などを様々な「がん」の手術別にお話しできればと思います。